

キャンドルサービスについて

キャンドルファイヤーは、自然学校の中で最も印象に残るものであり、忘れられない思い出となります。したがって、その内容やねらいをどのように扱うかがポイントになります。また、より効果的にするためには、事前に準備しておくことがいくつかあります。キャンドルファイヤーは、最初の夜に実施する場合は、参加者の緊張をほぐし、親睦を深める効果があり、最後の夜に実施する場合は、それまでの活動や日常生活を振り返る有効な場となるなど、その教育的意義は高いものです。しかし、指導者がそのねらいや教育的目的をはっきり意識せず、ただ単に火を囲んで騒ぐだけに終わってしまう例も多く見受けられます。もう一度キャンドルファイヤーの意義や方法を考えてみましょう。

(1) ボンファイヤー（親睦の火） ゲームや歌、踊りなど楽しい雰囲気で行います。

(2) キャンドルファイヤー（儀式の火） 静粛で厳粛な雰囲気で行います。特に、開会時と閉会時は、儀式として行う場合が多く、営火長の言葉や参加者代表の言葉は、神聖な雰囲気の中でより効果的なものとなります。

☆ねらいとして考えられるもの

- (1) 親睦を図る。
- (2) グループワークの振り返りとして実施する。
- (3) 話し合いの場として実施する。

※ いずれかに重点を絞り、それに応じた展開をしましょう。

役割分担の例

役割	人数	内容
営火長（代表）	1	集いの責任者で、始まりと終わりに言葉を述べます
火の司（司会）	1	プログラム全体の司会進行をします スタンツをするグループから内容をきいて、進行順番も決めておきます。
火の神	1	迎火の集いで、火をかかげて入場します
火の守	4～8	分火したキャンドルカップをかかげ、誓いの言葉を述べます。 事前に誓いの言葉を考えておきます。
ファイヤーキーパー	1	ローソクの火の保持につとめます。 先生や大人と一緒に火傷しないように行いましょう。
献歌係	4～8	迎火・別れの集いで、歌をリードします 歌の練習もしっかりしておきましょう！大きな歌詞カードがあれば便利かも
音響係	1	集いが盛り上がるように演出します 使う音楽も用意しておきます。マイクや音楽をならす方法を学んでおきましょう
会場係	10	キャンドル台やキャンドルの準備、配布、後片付けをします

準備物

- ・キャンドル台 1・敷物 1（キャンドル台のローソクが垂れて床を汚さないため）
- ・キャンドルトーチ（大き目のローソクにアルミホイルを巻き付け、ローソクが垂れても火傷しないように作る。火の神や営火長が使うもの） 人数分
- ・キャンドルカップと小さいローソク（分火される児童や先生方がもつローソク） 人数分
- ・キャンドルカップやローソクを回収する箱
- ・使用する曲と音響セット（マイク付き）・時計 ・火の神の衣装 1・チャッカマン 1
- ・大きなローソク 2（キャンドルトーチ用）アルミホイル 中型ローソク 11（キャンドル台用）

事前準備

- ・キャンドルサービスの全体の流れを理解する。
時間配分の中で 1 グループのグループスタンツの時間を決めておく。
- ・役割分担を決める。
- ・グループスタンツをきめて練習する。グループの代表は事前に火の司（司会）に内容や時間を伝える。
- ・各役割分担の理解をふかめ、事前に何回も練習し、準備をする。

当日準備

- ・キャンドル台の配置・キャンドルトーチやキャンドルカップの準備
- ・キャンドル回収箱・音響機材や音楽や火の神の衣装などの準備
- ・式次第の掲示・リハーサル等

※事前の準備時間を 30 分程度確保しておいてください

キャンドルファイヤーの進め方の例（オリエンテーション）

- (1) 集 合 キャンドル台やキャンドルカップなどの準備をし、キャンドルサービスを行う場所に集合する。
- (2) 諸注意 簡単にファイヤーの意義についての話、歌の練習や諸注意をする。
- (3) 移 動 静かにキャンドル台の周りを円で囲むように移動する。

【第1部 迎え火のつどい】

- (1) 整列 キャンドル台を囲んでサークルを作り、静かに座らせる。
- (2) はじめのことば（司会進行）キャンドルファイヤーの開会を告げる。ことば例：「いよいよ、〇〇学校にも夜のとばりがおりてきました。友達の豊かな心を確かめ合い、友情を 深めていきましょう。」
- (3) 歌（「遠き山に日は落ちて」・「夕焼け小焼け」など）2番からはハミング
- (4) 火の神入場 ハミングに入ると、衣装を着けた火の神が点火したキャンドルトーチを持って入場 し、サークル内を1周する。
- (5) 火の神のことば キャンドルファイヤーの目的、意義などについて話す。ことば例：「みんなの心を一つにし、共に囲む理想の火、それがキャンドルファイヤーです。自らを焦がして明るく、暖かく赤々と燃える炎はどんなにか多くの感動を私たちに与えてくれることでしょう。今夜はこの火を囲み、歌い、踊り、ゲームを楽しんで今よりもっと仲の良い友達になってください。『心を開き、心を結び、大きな大きな友達の輪を』 そんな願いをこめてキャンドルファイヤーを盛り上げていきましょう。」
- (6) 点火（火の神）キャンドル台に直接点火、または代表者に分火する。（「誓いのことば」を入れてもよい。）
- (7) 歌（「燃えろよ燃えろ」・「星の世界」など）歌は省いてもよい。

【第2部 交歓のつどい】

全員で楽しく歌う、ダンス、ゲームをする 班、クラスから出しもの（歌、踊り、スタンプなど）

【第3部 送り火のつどい】

- (1) 歌（「山賊の歌」など）歌は省いてもよい。
- (2) 火の神のことば つどいのまとめを、短いことばにして話す。
ことば例：「赤々と燃えていた火も、今は静かに大地に帰ろうとしています。でも、皆さんの胸の中には赤々と燃える炎が見えるはずです。目を閉じると一生懸命燃えているキャンドルの火と、その周りで楽しそうに歌っている皆さんの顔が見えてきます。その1枚の絵を、この素晴らしい自然学校の体験と共に生涯もち続けてください。」
- (3) 歌（「今日の日はさようなら」）2番からはハミング
- (4) 火の神退場
- (5) おわりのことば（司会進行）キャンドルファイヤーの閉会を告げる。
ことば例：「私たちのキャンドルファイヤーも終わる時を迎えました。このつどいで築いた友情と力を明日からの生活の中に生かしてください。皆さんが、1つにまとまり、大きく発展していくことを願いながら、キャンドルファイヤーを終わります。」
- (6) 退場 静かに退場する。

* 留意事項

- (1) 大まかなつどいの流れについてあらかじめ説明しておく。
- (2) みんなで歌う歌は、事前に十分練習をしておく。
- (3) 営火長、司会進行、火の神などとの間の連絡をしっかりとしておく。
- (4) 第2部（交歓のつどい）のプログラムは事前にしっかりとたてて、練習して時間をまもる。



【ココからは教員用追加資料】

第1部 迎火の集い

聖なる火を持つ火の神を迎え、中央のキャンドル台に点火します。燃える炎を囲みながら友情の火を起こしましょう

内容	流れ
全体入場	(火の神) 衣装を着替え、用意しておく (全 員) 4列で入場し、キャンドル台を中心に円になる (火の司) 「ただいまより、〇〇学校キャンドルファイヤーを行います。火の神が山からの聖なる火を持って入場しますので、静かに見つめてください。」 (火の神) 静かに入場し、キャンドル台と参加者の間を一周し営火長の横につく
集い開始の言葉	(火の司) 「それでは、営火長よりはじめの言葉をお願いします。」 (営火長) 「いまここにみなさんの友情…」
中央の火床に点火	(火の司) 「ひきつづき、火の神によって中央のキャンドル台に点火をお願いします。」 「点火。」
歌の斉唱	(火の司) 「キャンドルに炎がともりました。人の人生は何もしないでいるには長すぎます。何かしようとするには短すぎます。同じ人生ならば、ぜひとも心に光り輝く一瞬をもって前向きに生きてみたいものです。中央のキャンドルの明かりを見つめながらの歌を歌いましょう。」 (斉 唱) 「燃えろよ もえろー」（つづきはこちら）
1部エンディング	(全 員) 流れてくる曲を歌う （知っていれば歌う。あとはハミングで）

第2部 ゲーム・出し物

（グループや班で楽しいゲームや出し物を行い、友情を深めましょう。）

第3部 送火の集い

（今夜自分たちを照らし続けてくれた炎に感謝し、仲間との友情を深め合いながらキャンドルをもって歩きましょう）

内容	流れ
全員集合	(営火長) キャンドル台の前に出てくる (火の司) 「人は決して一人では生きられません。支え合い、寄り添い合ってこそ生きられるものです。このキャンドルも、自分の身をすり減らしながら、私たちのため光を与えてくれました。あなたの愛する人を、そして、あなたを愛してくれる人を思い浮かべてごらん下さい…。お父さん、お母さん、兄弟、友だち…」
終演誘導	(すこし間をあけて) (火の司) 「とても楽しいひとときでした。しかし、もう夜も遅くなってきました。それではでは営火長から終わりの言葉をお願いします。」
営火長の言葉	(営火長) 「大勢の友だちが一つの光を…」
火の守	(火の司) 「それでは営火長から火の守へ分火してもらいます。」 「分火。」

誓いの言葉 火の守への分火	(営火長) 火の守は一人ずつ分火してもらいにいく (火の守) 分火直後、一人ずつ誓いの言葉を言う (火の守 A) 「私はこの火に・・・を誓います。」 (火の守 B) 「私は…。」(資料 4) (火の司) 「営火長より火の守へ分火されました。火の守は営火長の前へ整列してください。」 (火の守) 営火長の前に 2 列で整列し、(キャンドルロード) を作る
集い終了の言葉	(火の司) 「以上を持ちまして、〇〇学校キャンドルファイヤーを終わります。」 「皆さんは火の守のキャンドルロードの間を通過して退場してください。」 (全 員) 火の守のキャンドルロードの間を通過して解散する

後片付け 用具の回収・返却

キャンドルの消火（吹き消してください）、使用機材の片付け

使用場所点検（点検が終わるまで必ず待機しておいてください。）

<キャンドルファイヤー展開例>

第 1 部 火をむかえる…聖なる火を持つ火の神を迎え、中央のキャンドル台に点火します。【照明 OFF】

- ① 集 合 —グループ別にキャンドルファイヤーの場所とは別の場所へ。
(営火長・火の守は、先に入場し席について入場者を迎える。)
- ② 入 場 —無言・無灯・静粛。
- ③ 整 列 —立ったまま、中央のキャンドル台を囲む。【ここから始めてもよい。】
- ④ 開会のことば —火の司（司会者）が、キャンドルファイヤーの開会を宣言する。
- ⑤ 歌 —「遠き山に日は落ちて」（火の司）「夜のとぼりが降りてきました。ただいまより、〇〇学校キャンドルファイヤーを行います。それでは、今日一日のできごとを思い出しながら“遠き山に日は落ちて”を一番は歌で、二番は ハミングで歌いましょう。」
- ⑥ 火の神入場 —キャンドルトーチを持って、円内をゆっくりと一周し、営火長の横につく。
- ⑦ 採 火 —火の神がキャンドルトーチを、営火長のトーチ に点火する。
- ⑧ 営火長のことば—静かで落ちついた短い言葉。
(火の司)「営火長よりはじめの言葉をいただきます。」
(営火長)「火は、遠い昔から、私達に、生きる喜びや勇気を与えてくれました。火は、私達の生命で もあります。火を大切にすることは、自分を守ることにもなるのです。しかし、この偉大 な火も、使う人の心により、人類を闘争と破壊へと導くことにもなります。火を大切に使う心を忘れてはいけません。今、ここに燃える火は、ここに集う私達に、大きな勇気と自信を与えてくれるものと信じます。」
- ⑨ 点 火 —営火長が中央のキャンドル台に火を入れる。
(火の司)「営火長がキャンドルに火を点火します。」
- ⑩ 歌 —「燃えろよ、燃えろ」「若者達」「手のひらを太陽に」「校歌」等 (火の司)「さあ、みなさん、今あかあかと火がともりました。に“燃えろよ、燃えろ”を三番まで元気よく歌いましょう。」
- ⑪ 第 1 部終了

第 2 部 火をかこむ…グループや班で楽しいゲームや出し物を行い、友情を深めます。【照明 ON】

ゲーム・出し物 —全体でのレクリエーションやグループごとのスタンツ発表。

(火の司)「さあ、キャンドルの火を囲んで、楽しいひとときを過ごしましょう。」

※ 2 部は 1 時間程度でまとめる。

※ 2 部終了後に全員にキャンドルカップを配る。

第 3 部 火をおくる…今夜自分たちを照らし続けてくれた炎に感謝し、仲間との友情を深めます。【照明 OFF】

- ① 歌 —キャンドルカップをもって全員起立する。静かに心をしずめて 3 部に導入する。「ふるさと」「旅の歌」「四季の歌」「たなばた」等
(火の司)「楽しかったこのキャンドルファイヤーを胸におさめ、家族や友達、そして、みなさんを支えてくれているいろいろな人のことを思い出しながら”ふるさと”を 1 番は歌で、2 番はハミングでうたいましょう。」
- ② 営火長点火 —中央のキャンドル台から、キャンドルカップに火をつける。
(火の司)「中心で燃えている炎が、営火長に戻ります。」
- ③ 誓いのことば —火の子は、営火長の前に整列。営火長から営火をもらい、誓いのことばを述べる。

(火の司)「火の子は、キャンドルカップを持って営火長の前に整列してください。」
(火の司)「それでは営火長から火の守へ分火してもらいます。」
(営火長)「あなたには友情の火を与えます。」
(火の子)「私たちは、この炎のように美しい心もち、変わらぬ友情を育てることを誓います。」
(営火長)「あなたには努力の火を与えます。」
(火の子)「私たちは、この火に絶えず努力することを誓います。」
(営火長)「あなたには規律の火を与えます。」
(火の子)「私たちは、きまりを守り、自分のことは自分であることを誓います。」
(営火長)「あなたには協力の火を与えます。」
(火の子)「私たちは、みんなで力を合わせ、立派な子になることを誓います。」
(営火長)「あなたには希望の火を与えます。」
(火の子)「私たちは、いつも明日を信じて進むことを誓います。」
(営火長)「あなたには奉仕の火を与えます。」
(火の子)「私たちは、みんなで力を合わせ、みんなのために奉仕することを誓います。」
(営火長)「あなたには健康の火を与えます。」
(火の子)「私たちは、健康に気をつけ、粘り強く体を鍛えることを誓います。」 etc

④ 分 火 —各火の子は、班員に分火する。

(火の司)「それでは、火の子は各班のみなさんに分火してください。」

⑤ 営火長のことば—静かで落ち着いた言葉で。

(火の司)「このキャンドルファイヤーも終わりを告げようとしています。火を送るにあたって、営火長から 終わりのことばをいただきます。」

(営火長)「楽しかったこのつどいも終わりに近づいたようです。今宵の私たちのつどいを照らし続けてくれた意義ある火を、永遠の火といたしましょう。そして、みなさん、これからも、お互いに、協力しあい、励ましあい、がんばっていきましょう。」

⑥ 閉会のことば —火の司が述べる。

⑦ 歌 —火の司の言葉が終る前より前奏に入る。「今日の日はさようなら」

(火の司)「楽しいつどいの間、私たちを見守ってくれた炎も、今は、静かに消えてゆこうとしています。私達は、この宿泊生活を通して、とても素晴らしい経験を得ました。それらは、楽しく、また 厳しく、生涯忘れることのできない思い出の一つとなることでしょう。この感激を胸に、明日 から、また、新しい気持ちでがんばりましょう。今日のこのつどいを、小さくなった火とともに に閉じたいと思います。」

(火の司)「これで、〇〇学校キャンドルファイヤーを終わります。」

⑧ 退 場 —歌の一番終了後、退場する。

※ 実施上の留意点

① 展開には定形はないので、各グループの創意を生かして実施する。

② 退場の経路、キャンドルの消し方(使用する場合に限る)等も指導しておくこと。

火の守によって採火する 営火長の位置は、北極星を背にする 火の司 火の守 北極星は不変であり、古来北を指す星として暗 夜の道しるべとされ、指導者を意味している。

③火の子が班員に分火する キャンドルファイヤーを行うにあたってのオリエンテーション (※あくまでも一つの例です。)

自然学校のメインイベントともいえるキャンドルファイヤー。自然学校のすべてを持ち寄って 共に囲む理想の火です。あなたはこの自然学校で、心が燃えましたか。このファイヤーで心を 燃やしきり、「私のファイヤー」にしてください。ファイヤーの主役はあなたです。ファイヤーが楽しくなるのも、ならないのもあなた次第なのです。私たちは、そのお手伝いしかできないのです。キャンドルファイヤーは、1部・2部・3部からできています。第1部では、燃え上がった炎をただ一つの理想として祈る儀式的の時間です。したがって、入 場のときから無言で、厳かに、心を「気をつけ」しなければなりません。炎を理想とするために、特別な儀式をします。心静かに祈ってください。笑ったり、声を出したりしてはいけません。歌を歌うときは、あなたの理想に届くように大きな声で歌ってください。第2部では、明るく楽しいときをみんなの手でつくり上げます。いよいよあなたの出番です。嫌なことや辛いこと、すべてを忘れて、思いっきり歌い、踊り、楽しんでください。仲間との 友情を深めてください。そのためには、心の殻を打ち破り、おなかの底から声を出し、思いっきり動き回り、時には、はしゃぎまわることも大切です。スタンプの時は、しっかり観て、しっかり拍手してください。あなたの応

援が、すばらしい スタッツを引き出します。演じるときは、大きな声で、堂々と。第3部は、明日へ向かう火です。“ただ楽しかった”だけでは、本当の喜びは得られません。何かを手にしてください。自らを焦がして光と熱を与え、何の代償も求めないで大地に還って いく火を見つめながら、自分の生活を振り返ってみてください。共に楽しんだ仲間のすばらし さをかみしめてください。ここの第1部と同じように心静かに行き、おしゃべりはしないでください。お話しの中で、呼びかけや問いかけがあっても、心の中だけで答え、声には出さないでください。

ことば集

(1) 点火のことば 静かな夜のとばりに包まれ、神々の祝福に見守られながら、私たちは今、自然学校最後の、そして最高の喜びをもたらす火を迎えました。苦しかった火おこし、煙に泣いた炊飯、楽しかった野外活動。その中からいくつかの貴重な生活技術を体得し、新しい知識や考え方を学び、すばらしい友達をつくり、また、私自身のかくれた一面をも見つけ出したような気がします。この自然学校での多くの収穫は、必ず今後に生かさなければならないと強く感じました。豊かな思い出をいっそう感銘深く胸の奥に刻み込むためのキャンドルファイヤーにみんなの 情熱を結集しましょう。

(2) 営火長のことば みなさん！みなさんとともに今宵このキャンドルファイヤーを囲むことができる幸せに、まず 感謝を捧げましょう。そして、静かに、この火を見つめましょう。みなさんたちは、この火の中に何をみますか。この火は、人間の「かしこさ」をあらわします。火はあつかい方によっては、たいへん危険 なものですが、私たち人類は、「かしこさ」によって火をコントロールし、生活に生かすこと ができるようになりました。いつまでも創意工夫し、「かしこさ」をもち続ける人間になります。次に、この火は「情熱」をあらわします。すなわち、エネルギーそのものです。私たちの心 と体を誰彼のへだてなくあたためてくれます。いつまでも燃えつきることのない情熱と温かい 豊かな心をもち続ける人間に、そして、勇気ある人に成長してください。さらに、この火は「団結」を意味します。営火のやぐらを見ましょう。1本、1本の木では 火は燃えません。それぞれの丸太や小枝が助け合って大きな火となります。個人、個人の役割 とその協力、共同、奉仕のあり方を学びとってください。 それでは、私たちの人間関係をこの火のもとにいっそう固く結びつけるためのキャンドルファイヤーをはじめましょう。

(注) 営火長のことばは、キャンプの精神、営火の意義、友情・団結・奉仕・勇気など、また小学生などでは火にちなんだ話などキャンパーに感銘を与えるような内容と話し方が必要。あまり長くならず、5分以内くらいにとどめる。

【その他火の話】

① 幼児向け 今、木が燃えはじめました。この太い木も、はじめはたった一粒の種でした。暖かくて明るい太陽の光を受けて芽を出し、小さな木になりました。小さな木は、1年、2年、5年、10年と毎日太陽の 光を受けて、大地から栄養をもらい、雨で水をもらいたくさんの枝を伸ばし、大きな木になったのです。ここで燃えているのは、長い間ためてきた自然のエネルギーなのです。じっとこの炎を見つめま しょう。この炎は自然からの贈り物です。楽しいキャンドルファイヤーができるように、明るく、暖かくし てくれているのです。

② 小学生向け1 燃え上がる火を見よう。生きている赤い火、暖かい火、生の火です。この火が人間と獣を分かち、私たちの文化を築く源となりました。昔の人は火を大切にしました。料理をしたり、灯火としたり、生活に欠くことのできないものだったからです。一方、火は恐ろしいものでもあります。取り扱いを間違うと、またたくまに野原や森や林を焼き尽くしてしまいます。ですから、私たちはこの火を大切に 正しく使わなければなりません。この火をしっかりと見つめてください。自らを燃やし、私たちに光と熱を与えてくれるその姿は、思いやりの姿を教えてください。さあ、今夜はこの明るい火に負けないように、大声で歌い、笑い、踊 り、心を開いてすばらしい思い出を作りましょう。

③ 小学生向け2 今、こうして燃えている火は、数分前まで何も見えなかったこのつどいに明るさを与えてくれ、一人一人の顔を見せてくれています。火は遠い昔から私たち人間に、生きる喜びや勇気を与えてく れました。火は自らを焼き尽くしながら、光と熱を与えてくれます。火は私たちの命ともいえるもの です。この燃え上がる火を見ていると、体が暖まるだけでなく、心まで暖かくなってきます。今日は、 そんな火の暖かさにドブプリつかって楽しいキャンドルファイヤーにしましょう。

④ 中学生以上向け1 今、女神が運んでくれた炎が点火されました。この炎をじっと見つめてください。私たちに、協力、 団結、理想、愛を語りかけてくれます。協力。薪が1本だったら、小さな火にしかありません。それが何本も集まり、お互いがお互いを燃 やし合い、協力して大きな炎になっているのです。 団結。このファイヤーは、それぞれのローソクが灯り、お互いの光が重なり合って、周りを照らしています。理想。たった一つの火です。高く神々しく燃える火は、暗闇の中で私たちを照らし、私たちに行く 先を導いてくれます。少しでも、理想に近づきたいものです。最後は愛です。火は自らを燃やししながら明るさと暖かさを与えてくれます。火が燃えれば燃える だけ、みんなを輝かせます。この暖かさと優しさは、自然を愛し、人の命を愛することに通じます。この炎を囲んで、楽しいつどいを過ごしましょう。

⑤ 中学生以上向け2 “一期一会”という言葉があります。今の出会い、今このときはもう二度と還って来ないという意味ですが、まさに、今燃え上がっている炎とここに集った皆さんとの今の出会いはもう二度ともつことはできません。過ぎ去った一瞬を取り戻すことは決してできません。今燃えて、私たちに光と熱を 与えてくれている薪は、その二度とない命をかけています。輝く一瞬一瞬を積み重ねることで、光り 続けることができるのです。今日はあの薪のように、悔いのない時にしたいと思います。今夜は心 のかみしもを脱いで、命を燃やして、明日につながる価値あるときを、あなたの歌声と、手拍子と、 祈りを束ねて作り上げようではありませんか。

(3) 誓いのことば

- ① 友 情 私たちは、この炎のように美しい心をもち、変わらぬ友情を育てることを誓います。
- ② 努 力 私たちは、この火に絶えず努力することを誓います。
- ③ 規 律 私たちは、きまりを守り、自分のことは自分であることを誓います。
- ④ 協 力 私たちは、みんなで力を合わせ、立派な子になることを誓います。
- ⑤ 希 望 私たちは、いつも明日を信じて進むことを誓います。
- ⑥ 奉 仕 私たちは、みんなで力を合わせ、みんなのために奉仕することを誓います。
- ⑦ 健 康 私たちは、健康に気をつけ、粘り強く体を鍛えることを誓います。

(4) 分火の言葉

今、みんなで共に作り上げたファイヤーが終わろうとしています。楽しかったこと、仲間 と協力したこと、このキャンプで学んだことをみんなで分け合いたいと思います。心の中に “火” を灯し、あなたの町、あなたの家、に持ち帰り灯し続けてください。さ あ、新しい希望に向かってたくましく歩み出してください。

(5) 結びのことば

① 学校向け1 キャンドルファイヤーを終えようとする今、天の神々に、大いなる自然に、そして共に助け 合ったみなさんたちと厳しい中にも親切にご指導いただいた先生方に、もう一度、深い感謝 を捧げます。さらに、火というものが、これほどすばらしいものであることも初めて経験した楽しいキャンドルファイヤーでした。私たちは、今、一つの決心をしました。これまでの日常生活を深く反省し、新しい目標を それぞれの胸の中に立て、この火の光りに助けられながら、それを大切に育てていくこと を・・・。ありがとうございました。みなさんも一緒に・・・ありがとうございました。

② 学校向け2 すばらしいファイヤーでした。みんなが力を合わせて頑張ったからすばらしいファイヤー になりました。 あんなに赤々と燃えていた炎も、今は静かに大地に還ろうとしています。でも、みんなの 心の中には、赤々と燃え続ける炎が見えると思います。目を閉じると、一生懸命燃えている ファイヤーと、その周りで楽しそうにしているみんなの顔が見えます。このすばらしい体験 を一生持ち続けてください。この自然学校で学んだ協力の大切さや仲間のすばらしさを、こ れからの生活の中に持ち帰ってください。

③ 一般向け いよいよこのファイヤーも終わりに近づきました。尽きることのなかった話し合い。すばらしい体験と 友達を得たことと思います。この自然学校での出会いをいつまでも大事にしてください。お 互いの友情と信頼の火を灯し続けてください。 みんなで囲んだ火。あんなに燃え盛り、大きく明るかった火も、今はこんなにも小さくな ってしまいました。やがてこの火は消えてしまいますが、皆さんの心の中の火は消えること がないでしょう。心の中の火が次々に広がり、仲間の和に、未来を照らす火になることを祈 りましょう。一週間後の今日、私たちはどんな過ごし方をしているのでしょうか。普段は、文明生活に慣 れ切っている私たちです。でも、ここに集まって本当にすばらしい自然学校をもつことがで きました。この地球という自然の中で生きることが確かめられました。 私たちは、自然から何を感じ、火から何を学び、仲間から何を知ったのでしょうか。そし て、仲間に何を贈ることができたのでしょうか。火はやがて消えていきますが、私たちの心 の中に燃え上がる“火”を大切にし、いつまでも燃やし続けたいものです。

(6) キャンドルファイヤーの火について…4つの教え

① 火は、光を放つ。火は、世の中を明るくする光であり、道しるべである。社会の担い手の一人ひとりとして、世の中の光となり、社会を明るくする役割のあるこ とを教える。それは、人間として、無意味な人生を送るのではなく、目標をもち、人生の 道しるべとなる意義ある生き方を教える。

② 火は、熱を与える。火は、人びとを抱く暖かい熱を与える。熱は冷えきった身体に、暖かい血をよみがえらせ、心に通わせる。それは、わがままを 捨てて他を省み、人を愛する暖かい心をもつことの尊さを教える。

③ 火は、力を示す。火は、全てのみにくいものを焼き尽くす力である。赤々と燃える火も、一本一本の薪が、お互いに組み合わせられてこそ、小さな炎から大き な明るい熱をもった力強い炎となる。それは、人と人との協力と協調の中にこそある力強 い生き方を教える、また、人間の勇気と清らかさを教える。

④ 火は、自らを焼き尽して、光と熱を与える。火は、自らを焼き尽して働くところに、謙譲とかくれた善の行ない、犠牲と献身の尊さ を教える。それはまた、奉仕の精神にもつながる。